

# ほっと通信



秋も深まってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。年度当初の学校訪問をはじめとして、日ごろから巡回相談にご協力いただきありがとうございます。限られた時間での相談にはなりますが、日々指導に奮闘されている先生方のお役に少しでも立てればと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 支援につなげるアセスメント

今回の特集では、子ども一人ひとりの特性を理解する“アセスメント”について取り上げます。アセスメントとは「子どもに関する情報をさまざまな角度から収集し、それらを整理・分析して、子どもの実態や全体像を理解し、支援方法を見つけしていくプロセス」のことです。いわば“見立て”とも言えます。

アセスメントをする際の情報収集では「どんな問題を抱えているのか」「何ができないか」「どこでつまずくか」など、“できないこと”“困った行動”にまずは注目すると思います。これは、子どもの実態や全体像を理解するために、必要な情報となります。ただし、これらの情報収集に加えて、ちょっと意識してもらいたいことがあります。

それは、“支援につなげるアセスメント”をするための情報収集をしていくことです。たとえば、「問題となる行動が起こりやすい場面や状況はどんなときか、(別の言い方をすれば)問題となる行動が起きなかった場面や状況はどんなときか」に注目してみてください。また、困った行動が観察されたとき、“その行動をとることで、子どもにとってどんなメリットが生じているか”という視点から捉えてみる、ことも大切です。このような情報は、これからのかわり方や環境調整などの支援方法を見つけていくヒントになります。子ども自身と周りの環境との関係性を見直して整理することや、子どもの側の視点に立っていろいろと想像してみることで、子どもの理解につながるだけでなく、支援する側も見方が変わったり、対応に少し余裕が出てくるのではと思います。

巡回相談をしていて感じるのは、先生方や保護者のみなさんからのお話(日頃の行動観察や記録など)は、アセスメントのいちばんの材料となっている、ということです。

以上のような日々のなかで行うことのできるアセスメントに加え、方法の一つとして、知能検査というものがあります。検査の実施や取扱い方法については、次ページから説明しています。子どもとかかわられている方々には、是非とも目を通していただきたいと思います。

## ① “検査” をするまえに

本人自身の情報を整理することはもちろんですが、その前に…

- 学校内で話し合いがされてきたでしょうか
- 他にも、いろいろとトライしてみたかどうかといった、これまでの支援について振り返ることからスタートします。

これは、安易に実施して、その結果を正しく受け止められず、その後の支援につながらなくなることを避けるためでもあります。

じっくりと  
考えてから…

先生や保護者の皆さんは、その子についての情報をたくさんもっている、いわば『その子の専門家』です。

巡回では、そうした多様な情報や観察時の様子から見立てを行うことが、最も大切なことだと考えています。検査を実施するかどうかを決める前に、十分な情報交換をしましょう。

## ② “検査” とは

巡回相談では、主として『WISC-IV (ウィスク・フォー)』という検査を行っています。この検査は、知能検査とも言われるもので、知的発達水準(IQ)も出ます。それぞれの年齢集団の中での相対的な力が数字によって表されます。

しかし、この検査の特徴は、「個人内差」として、一人一人の中での得意な部分や苦手な部分を探っていくところにあります。これは、それぞれの特性が学習面や生活面にどのように反映しているのかを考えていくために必要だからです。

実施をするに当たっては、事前に検査についての説明を行います。詳しいことは、そのときによく聞いてください。

実施に当たっては、本人の協力を得るためにも、マイナスイメージにならないように、事前の説明をていねいに行ってもらいたいと思っています。そのためにも、このほっと通信のまえがきにあるような“アセスメント(見立て)”に対して、関係する皆さんの共通理解が必要です。

# 巡回相談で行われる “検査” について 考えてみましょう!

## ③ “検査” をしたあとは

実施後、まず保護者も含む関係者による話し合いの場で、検査結果の説明を行います。ここでは、検査数値に加え、検査中や行動観察での様子なども照らし合わせながら解釈を進めていくようにしています。

なお、検査の結果については、保護者、学校、巡回相談チームの3か所のみで保管されます。個人情報の管理にも十分に気を付けていきたいと考えています。

数値が独り歩きを始め、出てきた結果にだけ、一喜一憂しがちです。そこから見えてくる『特性』や『困り感』について理解を深め、その先の指導・支援を考えていってほしいと思います。

表面に表れてくる数値よりも、そこからどのようなことを読み取るのが大切です。

何でやらずに  
いけないの?

いったい何がわかるんだろう?

応援している  
からね!

クイズみたいな  
ことをしますよ

## ④ まとめとして

よく「客観的なデータだから…」という言葉を目にしますが、あくまでも支援を行っていくためのツール(道具)の一つですので、過大評価は禁物です。

結果をもとにした指導や支援の提案は行いますが、その後の具体的な支援を考えるのは、学校を中心とした関係者の皆さんです。

検査をして安心するのではなく、日常の中でのアセスメントも踏まえて、一人一人のもっている力や特性について総合的に理解し、ぜひ、その後の支援に役立てていってほしいと思います。

### “検査” についての Q&A

Q: 「何度でもできるの?」

A: 1度行くと、原則1年以上のあいだをあけなければなりません。

Q: 「どのくらいの時間がかかるの?」

A: およそ60~90分くらいかかります。





## 巡回相談のご案内



巡回相談では、市立小中学校に在籍する児童・生徒のうち、特別な支援が必要と思われるお子さんの状況を、心理相談員・研究主事等が授業観察や聞き取りを通して発達の特性の見立てを行います（障害の判定をするものではありません）。そして、学校内において、児童・生徒への支援をどのようにしたらよいか、先生方と一緒に考えていきます。児童・生徒の支援に関してはさまざまな手段・資源がありますが、その一つとしてぜひご活用ください。

昨年度ご活用いただいた学校より

- 児童・生徒に対する学習上での関わり方を確認できた。
- 本人の特性を関係者で共通理解することができた。
- 本児の良いところと課題になると思われることが整理され、支援の手立てがはっきりした。
- 学校での課題、家庭での課題が明確になり、今後の方針を立てることができた。

など…

巡回相談のお申し込みは、管理職または特別支援教育コーディネーターから電話でお願いします。巡回相談チームの職員が、児童・生徒の様子や学校の求めていることなどを聞き取ります。申し込み時に聞き取ることや、巡回相談の流れについては、年度当初の学校訪問の際にお渡しした資料をご覧ください。



電話受付 月～金 8:30～17:00

Tel. 664-1615 または PHS[Kキョウイクセンタートクベツシエン2]



## 職員の紹介



今年度の教育支援課 相談担当 巡回相談チームの職員です。  
どうぞよろしくお願いいたします。

○主査（市職員）

菅原 慎逸

○心理相談員（市嘱託員）

相崎 めぐみ ・ 近藤 正美 ・ 齋藤 登

○研究主事（市立小中学校 管理職経験者）

朝倉 正教 ・ 大越谷 正樹 ・ 小井塚 洋一

特別支援教育担当から  
「巡回相談チーム」へと  
名称が変わりました



イラスト:WANPUG